

## 臨 牀 實 驗

### 「ヴェロナール」疹ノ一例

於 岡 山 田 丸 要 槌

多クノ藥品ハ一定ノ用量ヲ超エテコレヲ人類ニ應用スルトキ、又ハ普通量ナルモ持續應用スル場合ニハ其蓄積作用ニヨリ中毒症狀ヲ發スルモノナリ、又其用量普通ナルモ個人的ニ所謂特異質ヲ有スルモノニアリテハ種々ノ中毒症狀殊ニヨク皮膚發疹ヲ呈スルコト稀ナラズ、而シテ此發疹ハ或ハ先天性ニ來リ、又ハ後天性ニ來ルモノニシテ就中後天性特異質ハ一時的ナルアリ、永久的ナルアリ、特異質一定度ニ停止スルコトアリ、進行スルコトアリ、而モ同一ノ患者ニ對シテハ同一ノ藥品ハ每常同一ノ發疹ヲ呈スルモノ多シ、而シテ發疹ト用量トノ關係ニ就テハ、頗ル不定ニシテヨク痕跡ヲ以テ重大ナル症狀ヲ呈スルモノアリ、或ハ永ク持長シテモ輕微ナル發疹ヲ呈スルコトアリ、殊ニ興味アルハ發疹ガ同一部位ニ局限シテ反覆發來スルコトナリ彼ノ「アンチピリン」疹ノ如キコレナリ、或ハ一旦發疹セシ部位ニハ決シテ再來セザルモノアリ水銀疹ニコノ例ヲ見ル。今回余ハ「ヴェロナール」Veronal (Ureadiaethylmalonica od. Acidum diaethylbarbituricum) ニ由來セシ特異ナル發疹即チ固定「ヴェロナール」疹ト稱シウベキ一例ニ遭遇シタルヲ以テ特ニ報告シテ諸賢ノ參照ニ供セントス。

例 患者 K. I. (男) 46歳.

患者ハ慢性結膜炎ヲ以テ昨年夏以來余ノ診察所ニ來ルモノニシテ、遺傳的關係不明ナルモ、慢性胃症(過酸症?)ヲ有シヨク大量ノ重曹ヲ自家使用セリト。其外神經衰弱、不眠症等ヲ有シ、殊ニ20餘年來慢性結膜炎ヲ患ヒ常ニ眼科醫ヲ煩ハストノコトナリ、而シテ不眠症ノタメニハ往々結膜充血ヲ來シ甚ダ過敏トナリ不幸ナル場合ニハ種々ノ困難症ヲ續發スルコト珍シカラズ、此故ニ鎮靜催眠ノ目的ニ續々催眠劑ヲ應用スルヲ例トセリ、然ルニ偶々本年2月15日不眠ヲ訴ヘ處置ヲ希望セシニヨリ「ヴェロナール」0.6 乳糖適宜ヲ配合シテ頓服トシテ與ヘシニ

16日朝來院ノ節訴ヘテ曰ク昨夜ハヨク睡眠シマシタ、併シ毎度ナレドモアノ頓服ヲ服用スルト常ニコナ發疹ヲ生ジ(トテ患部ヲ指示シ)殊ニ今回ノ分ハ朝醒覺後癢痒甚シキニ困マルト。

コレヲ診スルニ、右示指内側第一節ニ約一錢銅大長圓形、左小指外側ニ五厘銅大圓形、兩側腹壁ニ各一箇ノ小兒手拳大ノ圓形發疹アリ、何レモ健康ナル周圍トノ境界判明シ發赤腫脹シテ多少隆起ヲ呈シ一部分水泡狀ノ觀ヲ呈ス、癢痒激シキ様子ナリ、此疹ヲシキ症狀ヲ一見シ甚ダ興味ヲ以テ調査スルニ、毎回同一狀態ニ發疹シ而モ同一部位ニ發來シ數日ノ經過ヲ以テ全治スルモノニシテ他ニハ何等ノ困難ナシト。併シ此患者ニ就テハ從來「ヴェロ

ナル」ヲ投與セシコト一再ニ止マラズ、然レドモ未ダ嘗テカカル訴ヘテ聽キシコトナキ所以ヲ調査セシニ、毎度同様ノ發疹ヲ來シ而モ同一部位ニ發來スルケレドモ不眠ノ苦痛ニハ及ブベクモナキニヨリ特ニ訴ヘザリシトノコトナリ。

17日 朝來リ昨夜來熱感頭重嘔氣アリト、他覺的ニハ脉搏體溫其他異常ヲ認メズ

19日 發疹部ノ腫脹減退癢痒大ニ輕快

21日 發疹部暗赤色ヲ呈シ一部分落屑ヲ始ム。

24日 僅ニ暗色ヲ呈シホ落屑ヲ認ムルモ殆ド全治シ最早自覺症ヲ訴ヘズ。

超エテ3月6日ニ至リ各發疹部全ク痕跡ヲ認メズ。

今珍奇ナル實驗ニ遭遇シコレヲ「リテラツール」ニ徴スルニ森島博士ハ其著藥物學ニ於テ述ベテ曰ハク「ヴェロナル」ハ「スルフォナル」ノ如ク排泄緩慢ナルガ故ニ一回量ニ於テモ尙ホ次日ニ睡氣、眩暈、惡心、嘔吐、下痢、皮疹及ビ瘡痒等ヲ來スコトアリ但稀ナリ、又一回ノ大量ニテ昏睡心臟衰弱反射亢進時トシテ強直性痙攣ヲ來スコトアリ、尿量減少ス、連用スルトキハ蓄積作用ヲ呈シ精神朦朧歩行蹣跚等ヲ發シ漸次精神及ビ身體ノ衰弱ヲ來ス、又癲癇様發作ヲ來スコトアリ、又貧血「ヘマトポリフイリン」尿ヲ誘致ス、一般ニ「スルフォナル」ニ似テ危險ノ度コレニ劣ル。用量ハ0.25—0.75最少致死量4.5—5.0ナリト。

今コレヲ實例ニ徴スルローゼンドルフ氏ノ二例、本邦ニ於テハ笠島氏ノ二例アリ、前者ハ大量5.0ヲ頓服シ其一例ハ重篤ナル全身症狀ノ外胸部ニ大ナル紅斑ヲ呈シ他ノ一例ハ著大ナル全身症狀ノ外發疹ヲ認メズ、後者ノ例ニ於テハ少量ヲ持長シ(1.0ヲ分服トシテ數日間内用ス)二例共顔面胸部及ビ上膊等ニ粟粒大ノ發疹多數發シ腫脹ヲ呈シ全身症狀トシテ發熱ヲ伴ヒタリト。

之ヲ要スルニ「ヴェロナル」中毒甚ダ頻發スルモノニアラズ、況ンヤ其發疹殊ニ余ノ例ノ如キ固定紅斑ヲ發スルニ至リテハ稀中ノ稀ニ屬ス、コレ余ノ特ニ報告スル所以ニシテ、其原因ニ就テハ藥疹ノ原則ニ從ヒ特異質ニ歸スルヲ以テ最モ穩當ナリト信ズ殊ニ患者ノ慢性胃症及ビ神經衰弱ヲ有スルノ點ハ此發疹ト何等カノ因果關係ヲ有スルモノニアラザルカ少クトモカカル神經素質ノ患者ニ處方スルニアタリテハ注意スベキ價值アリト信ズ。

終リニ臨ミ奥島教授ニ御示教ノ勞ヲ謝ス。(大正14年3月12日原稿受領)

### 參 考 書 目

- 1) 森島博士著 藥物學第八版
- 2) 林博士著 藥理學第十版
- 3) 土肥博士著 皮膚科學上卷第七版
- 4) 笠島陽三「ペロナル」疹ノ二例(醫學中央雜誌第7卷—明治43年)
- 5) Rosendorff, Über einen Fall von Veronalvergiftung (Berliner Klinische Wochenschrift No. 20. 1910.)